

1 提案者 小山 愁平 （通明小学校）

2 提案内容

- (1) 単元名 「 本当の友情って 」
- (2) 利用した番組名 「 周りに合わせる 友情 」
- (3) 授業のねらい

自分の情報機器を持っている子どもたちが、意見交流や動画視聴を通してネット上のやりとりは相手が見えない特性を理解することで、注意することの大切さを感じることができる。

(4) 授業の実践記録

段階	学習活動	児童・生徒のようす	指導・助言	備考
導入	○google アプリ「forms」を使い、SMS やゲーム機、携帯端末について簡単なアンケートを行う。	・熱中するのが怖い ・ネットトラブルに巻き込まれるのが怖い。 ・ゲームや友達と連絡取れるのが楽しい。		事前にクラスルームにアンケートを貼り付けておく。
展開	○クラスの結果をまとめたものを確認する。 ○番組を全体で視聴 ○自分の揺れる気持ちをスケール表にする。 (google スライド) ○歩き回って3人の友達に考えを伝え合う。	・「自分と同じことを友達も心配している」 ・「楽しいこともあれば怖いところもあるから自分で考えて使わないといけないな。」 「難しくて決められないな」 「わかってはいるけど、合わせた方が平和にすむ」  「怖いから周りに合わせるにしたけど、どうした？」 「なんかあったら親や先生に	結果を見てどう思ったか問う イラストを使って状況を整理する。 どっちの気持ちが優位なのか理由も考えさせる。 誰のどんな考えが心に残ったか決めながら行わせる。	5 : 00 で止める

まとめ	○全体で番組を視聴 ○最後まで見た気持ちをもう一度スケールに反映させる。 ○感想を書く	言えばいいんだよ。俺は注意するけどな」  「1人でなんとかしようと思うのはよくないと思った。」 「いじめている人の心が心配」 「直接言えばいいのに何でラインで言うの？」 「周りに合わせるか合わせないかではなくて、大事なことは言葉で言うべきだ。」 「もしそう言う人がいたら、アドバイスして助けてあげたい。」	印象に残った考えを発表する 変わった人にはなぜなのか理由を聞く。	途中から最後まで
------------	--	---	--	-----------------

(5) 考察

- ・日常のよくありがちな場面が動画になっていることで、子どもたちは考えやすかったと思う。
- ・終末の場面でどうするという結論を出さないことで、その先の想像や対応の仕方が膨らみ、話し合いが活発になった。
- ・道徳はとてもよく使えた。もう少し話がたくさんあるといい。